

Passages

経営学部 Interactive Info

2004.Vol.2

経営学部のキーワード『知の創造と活用』とは？

若手教員から、在学生、新入生へのメッセージ

豊平シンクタンクの内側

灯台下暗し経営学講座

やってみないとわからない

—シミュレーションのススメ—

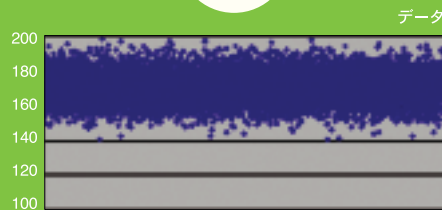
Campus Column

ここが違う！

経営学部の情報教育

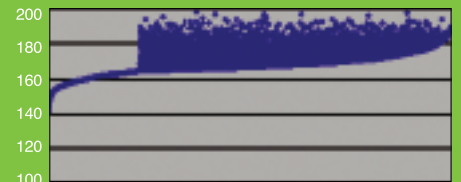
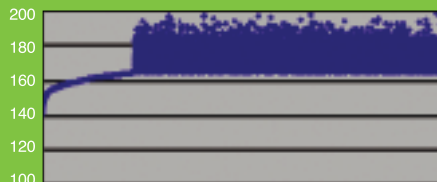
START !!

コレって
何かノジッケン？



S=20000000

S=20000000



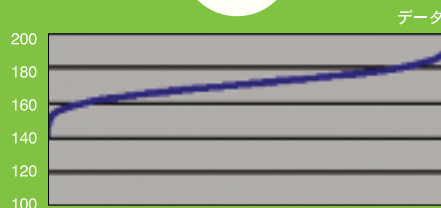
S=40000000

S=40000000



GOAL !!

(実験の正体) 各グラフの点は人の頭で、縦軸はその頭の位置すなわち身長です。スタート時点では1万人の人が横一列にてたらのめの順番で並んでいます。その列を2つの異なる方法で左から背の低い順に並べ替えるプロセスを表しています。「2つの方法」については裏表紙をご覧ください。



世の中には教科書どおりにいかないことが何と多いことでしょう。理論的には「こうなるはずだ」と書いてあっても、実際やってみるとまったく期待はずれの結果になってしまう…。だからといって教科書を悪者にするのは愚の骨頂というもの。そもそもどんな状況にも万能な理論なんてあり得ないのですから。そんなとき役に立つのは、似たような状況を作ってその理論を「試してみる」こと、つまりシミュレーション(擬似体験)です。これによって、教科書に書いてないことが結構見えてくるものです。

1万人の人が横1列にでたらめの順番で並んでいます。その列を左から背の低い順に並べ替えなさいと言われたら、あなたはどのようにしますか? ここで2人の勇敢な学生—えらぶ君とあわ子さん—が立ち上がりました。2人は別々の方法でこの難題に挑みました。(以降nは並んでいる人の人数です。)

〔えらぶ君の方法〕

iを1からn-1まで1ずつ加算することに次を実行

「(左から)i番目からn番目の中で1番背の低い人を見つけて、その人とi番目の人を入れ替える」

〔あわ子さんの方法〕

iを1からn-1まで1ずつ加算することに次を実行

「一番右(n番目)からi番目まで順に隣同士を比較し、右の人が小さければその都度入れ替える。但し入れ替えが1度も起こらなかったらi < n-1でも作業終了(並べ替え完了)」

表紙には、えらぶ君の方法で並べ替えるプロセスを左側に、あわ子さんの方法を右側にそれぞれ描いています。sはそれまでに行った大小比較の回数です。情報処理の理論では、2人の方法は大小比較の回

数が最悪で n^2 にほぼ比例するという意味で同程度の効率と見なされます。実際に2人の作業をパソコン*1でやらせてみると、えらぶ君の大小比較回数の平均*2が4999.5万回なのに対し、あわ子さんののは4997.5万回となります。途中終了がありうるあわ子さんの回数が若干少ないとしても、ほぼ互角に見えます。

ところが平均実行時間を比べると、えらぶ君が9.1秒なのに対し、あわ子さんは27.0秒もかかってしまうのです。この差はいったい何なのか…。実は、入れ替えに結構な時間が必要で、そのため頻繁に入れ替えを行うあわ子さんが負けてしまったのです。教科書を読んだだけでは、こんなに大差がついてしまうなんて想像もつきません。

では、あわ子さんの方法には何のとりえもないのか? 実は、図1のようなパターン(左から体重の軽い順に並んでいるような例)では、えらぶ君の平均大小比較回数と平均実行時間がそれぞれ4999.5万回、9.1秒なのに対し、あわ子さんののは1692.3万回、5.8秒…。今度はあわ子さんの方が圧倒的に強いのです。あらかじめ雑な並べ替えが済んでいる状況では、全体にわたってこまめに入れ替えを繰り返しながらゴールに近づけるという、あわ子さんの戦略が活きてくるのです。問題解決の手段には、自分が得意とする状況とそうでない状況があるので。

あれこれ迷ったら、とりえず試せるものは試してみる…。自分でやってみて初めて納得できることは結構多いものです。そう考えると、大学生活も実社会に出る前のシミュレーションみたいなものかな?

やってみないとわからない —シミュレーションのススメ—

文責:穴澤 務
経営学部助教授
(経営統計学)

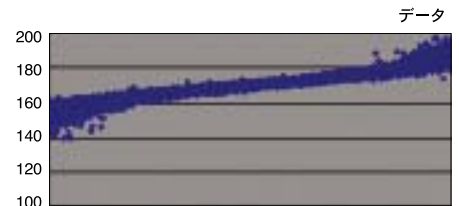


図1:このパターンだとあわさんが勝つ

※本稿で使用したシミュレーションプログラムは穴澤のホームページで公開しています。経営学部のホームページからどうぞ。

*1 FMV-LIFEBOOK MG(CPU:モバイルインテルCeleron 1.2GHz, メモリ:256MB)で実行。

*2 表紙のスタートのようなパターンの乱数を10種類発生させ、それぞれに対する計測値を平均。但しえらぶ君の大小比較回数は常に4999.5万回。



Campus Column

ここが違う! 経営学部の情報教育

北海学園大学経営学部の特徴の1つに、充実した情報教育があります。でも、今やどの大学でも情報教育の充実なんて当たり前のようになっていると思いませんか? 実は、北海学園の経営学部は、すぐ特色のある情報教育を展開しているんです。ここでは、その一部を少しだけご紹介してみようと思います。

まず、情報教育とって、みなさんがまず思い浮かべるのは資格取得ではないでしょうか。情報系の資格には多種多様なものがあり、多くの大学生が就職対策として資格取得に積極的に取り組んでいます。経営学部では、このような学生をバックアップするためにエクステンション・センターという機関を設けています(北海学園でも経営学部だけが持っています)。ここでは、資格取得のための指導などがおこなわれていて、大学の教室で資格対策の講座を開催したりしています。このような資格対策講座は、専門のスクールから厳選された一流の講師を招き、大学内という恵まれた立地で格安で開講されています。

また、コンピュータは毎日のように利用しなければ実際に使いこなせるようにはなりません。経営学部では、一部の学生全てに1人1台のノートパソコンを所有してもらい、講義中や予習・復習などで実際に日常的に利用しています。2004年度からは本格的な講義支援システム【HLS(仮称)】も導入され、プリ

ントの配布や補習、小テストなどがインターネットを介しておこなわれるようになります(中ページのコラム参照)。また、実際の講義でも積極的にパソコンが用いられます。例えば、総合実践英語のコースでは、英語でのプレゼンテーションやホームページ作成など、授業中にパソコンを利用する機会が多くあります。他に、経営学専門科目でも、講義中に企業のホームページを参照して議論をおこなうこともあります。経営学部生にとってパソコンは学生生活のほとんどに関連する日常的なツールとなります。

このように、経営学部での情報教育は他の大学や学部にはない優れた特徴を持っています。しかも、これらは経営学部の特徴のほんの1部にすぎません。経営学部では、情報技術を勉強するだけでなく、それを実際に毎日使い、より充実した学生生活を送るために利用するという一貫した情報教育環境が準備されています。是非、みなさんもこのような環境の充実した経営学部で勉強してみませんか。



経営学部専任講師
佐藤 大輔
(担当科目 経営管理、演習)

Campus News

経営学部からのお知らせ

経営学部見学ツアーの開催

経営学部では、全学的なオープンキャンパスとは別に、経営学部独自の優れた特徴を体験しながら理解してもらう「見学ツアー」をおこなっています。

- 日程
- ◎第1回 7月3日(土)
 - ◎第2回 9月4日(土)
 - ◎第3回 11月6日(土)

時間 ◎13:30より

集合場所 ◎本学7号館

内容 ◎経営学部の紹介、模擬講義、新校舎他施設見学、個人相談会など。

※予約の必要はありません。自由に参加できます。

2005年度(平成17年度)入試よりリスニング試験導入を検討

経営学部では、再来年の2005年度入試より、一般入試の英語科目において、簡単なリスニング問題の導入を検討しています。



若手教員から、在学生、新入生へのメッセージ

Passages2号では、経営学部開設と同時に着任した20代、30代前半の講師陣に、経営学部の教育体制を示す「知の創造と活用」というキーワードを絡めつつ、各々の教育に対する考え方を、自由に語ってもらいました。

経営学部のキーワード「知の創造と活用」とは？

21世紀は、量から質へ、ハードからソフトへというように、あらゆる分野で価値創造やイノベーションが求められています。そのため、それらを実現する知識に注目が集まり21世紀は「知の世紀」といわれています。北海学園大学経営学部は、こうした新しい時代に貢献できる人材育成を目的に、組織経営系、組織情報系、組織心理系という異質な専門領域を総合する全国でもユニークな教育体制を構築し、その内容を表すキーワードとして「知の創造と活用」を用いることにしました。これには、本学部が問題の発見とその解決という実社会の要請に対して、それに答えるために、従来の枠組みに捉われない新しい知を創造しそれを活用する教育、研究の場でありたいとの願いが込められています。

すべての問いに答えがあるわけではない。
ある局面では、
答えを保留にすることも。 — 増地 —

浦野 僕の経験からいうと、高校までの勉強は、先生が何かを教えて、生徒はそれを覚えるというスタイルが中心ですよ。

赤石 高校までは、クエスチョンがあってアンサーがあるといったような勉強が繰り返されますよね。でも、大学での勉強は、極端に言えば、アンサーそのものよりも、アンサーに行き着く過程や、過程においてどのように物事を考えたかということのほうが重視されます。

増地 すべての問いに答えがあるわけではないので、ある局面においては、答えを保留するケースも出てきます。先日、高校で初めて授業を行ったんですが、『人間の性格は一般的にこう言われているけれど、心理学の学問上はまだ結論は出ていない』と話したら、結論がほしい、答えがほしいと言われまして。高校生は、勉強するものにはすべて答えがあると期待しているようでした。

浦野 本を読むにしても、その主要な目的は知識の吸収にあるといった感じですよ。高校までは、でも、ほんとうは、本に書かれていることをいかに解釈し、それを実際の世界にどう当てはめていくかを考えることのほうが大切じゃないかと思えます。

赤石 僕の担当科目にも、ファイナンスの計算方法など、そのまま覚えなければならないものもありますが、覚えることが到達点ではありません。覚えたことを使って、どう考えるか。つまり、ツールとして覚えていくわけです。その上で、ツールをどう使っていくのか、ツールを使うことで何がわかるのかを考えること、あるいはそのツールに込められた意味を考えていくことが本質だと思います。

増地 私の担当科目である心理学でも、そのまま覚えなければいけないことがありますが、暗記が目的ではありませんね。



浦野 僕が教えている総合実践英語のクラスでは、英語を訳すといったことをする代わりに、読んだ内容について議論したり、それについて英語で書いたりしています。先日は年功序列賃金制と転職をテーマにした英文を読みました。文中、『最近は何%の人が転職している』といったデータも出てくるのですが、そのようなデータをただ表面的になぞるだけでなく、それらをもとに、自分だったら転職をするかしないか、なぜそうなのかを考え、語らせました。どの意見が正しいか正しくないかではなく、自分の主張に関して、相手を納得させるだけの理由づけができるかどうか重要です。つまり、主体的に考えることを身につけていこうというのも、授業の目的のひとつなのです。

赤石 僕たちを含め、すべての先生に共通しているのは、おそらく「考える力」の修得を重視していること。なぜなら、「考える力」が、知の創造と活用の土台になるからなんです。

情報を受け取ったところから、
自分ならどうするかを考える。 — 浦野 —

赤石 「知」というものには、情報やマニュアルの記述に代表される「形式知」と、口や文書では伝えられない物事の考え方のようなものをさす「暗黙知」があります。経営学部のコンセプトで使われている「知」とは、あきらかに後者であるように思います。

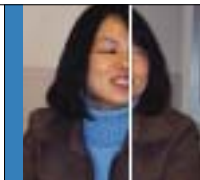
増地 教科書の記述の中には、読むだけでは理解しきれないものもあるので、自ら手や足を動かして「知」を理解していくプロセスも必要だと考えています。そのため、授業では、ミニ実験のようなかたちで教科書の記述を再現し、体験してもらう機会を多く与えるようにしています。「知」を実感することが、新たな「知」を生むベースになり、きっかけになるはずですから。

赤石 「活用と創造」ということでいえば、「知」を活用する方法を生み出すこと自体が創造であった



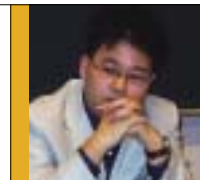
赤石 篤紀
Atsunori Akashi (29歳)

兵庫県出身
神戸商科大学大学院経営学研究科
●研究テーマ『ベンチャー・キャピタルの投資行動』



増地 あゆみ
Ayumi Masuchi (32歳)

北海道出身
北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻
●研究テーマ『リスク認知と意思決定に関する心理学的研究』



浦野 研
Ken Urano (31歳)

神奈川県出身
ハワイ大学大学院博士課程第二言語習得専攻
●研究テーマ『第二言語習得(特に大人と子供の持つ言語能力の相違点の解明)』

りもするわけですから、実は表裏一体だったりもしますよね。

浦野 「知の活用」の解釈には、特定の専門分野で学んだこと自体を活かすということと、論理的な考え方を学び、論理的な思考を活かしていくということの2種類があると思います。ただ、いずれにしても、先ほど赤石先生がおっしゃっていた「考える力」がベースです。情報をいくら積み重ねることができても、それを処理する準備ができていないと、結局はその情報は活用できない。それでは意味がないですから。

増地 発明品のようにモノとして具現化される「知」であれば、その活用方法はある程度決まってくるでしょうが、「知」には、具現化できないものもあります。それらは、かなり主観的、主体的になりますが、大学で学ぶというのは、一人ひとりが自分の体験として客観的な知を集積していくこと。そこが高校までの教育とは違うんじゃないかと思います。

浦野 情報を受け取っておしまいでなく、情報を受け取ったところから、さて自分ならどうするだろう、自分の生活にあてはめたらどうなるんだろうということを考えていく。そういった日常の訓練が、「知の創造と活用」につながっていくということでしょう。

赤石 そもそも経営学は、人相手の学問ですよ。たとえば、企業のことを学ぶにしても、企業は消費者に対して商品・サービスを提供しているわけですから。人間はどうされるとうれしいのか、いやなのかなど、人の心の動きを知ることは重要な側面になると思います。ただ、消費者は無数にいる。

増地 リーダーシップのとり方や、やる気を出させるにはどうしたらいいかといったことには理論がきちんとあります。ただ、その理論を実践に展開する際には、学んで現場に持ち帰った人の考え方、活用のされ方に任ざされてしまうといった側面はありますね。

浦野 それはそれでいいんじゃないでしょうか。「知」を活用するための素地のひとつとして理論があると考えれば。会社を経営するにしても、組織心理にせよ、ファイナンスにせよ、そういったことを知っている人間が経営するのと、まったくいきあたりばったりで経営するのとでは、効率がずいぶん違ってくるはず。バックグラウンドがあるかないか

はとでも大事なことで、そういう知識を身につけられるのは大学にいる間だけだと思います。

結局のところ、学びたいという気持ちが大学では大切なんです。

— 赤石 —

赤石 知を創造し、活用できる人材というのを、日常的なシーンでイメージしてみましょうか。たとえば、その人が車のディーラーさんだとすると、お客さんに車の説明をする際、説明すべき点は何なのか経験や知識から把握でき、言うべき事柄と聞かないでおくべき事柄のジャッジも長けているでしょう。では、なぜ、そういったことができるのかというと、シミュレーション上手というのもひとつの理由です。このようなシミュレーション能力を高めていくには、日ごろからの訓練が有効です。ただ、シミュレーションを一人でやると広がり期待できないので、仲間とワイワイやっていくほうが進展したりもします。

増地 ただ、そうなるとコミュニケーション能力も問われます。

赤石 自分の考えや思いを正確に伝え、他人のそれを聞き出す能力ということですよ。残念ながら、その点が、本学の学生を含め、いまの学生世代はちょっと頼りない。友達同士でなら騒げるものの、40、50代の方とは話せない、話を聞きたくても聞けないようですよ。また、同年代でも、プレゼンテーションなどの公の場でのやりとりとなると、相手が学生であろうと質問ができない。思っていることはあっても、それを口に出して言えないところがあります。

浦野 そうですね。私は、去年まではアメリカの大学で非常勤講師をやっていました。向こうの学生は、積極的にコミュニケーションをとろうとします。日本の学生との一番の差はそこでしょう。ただ、私は、話をしないからといって、その学生に問題意識がないか、考えていないかということ、実際はそうではないと感じます。無口な学生の中にも、重要な考えや誰も思いつかないようなひらめき、説得力のある意見を持っている人がいますから。僕としては、そういう学生も引き上げたいと思いますね。

赤石 とはいえ、大学は、学生を大人として扱う場でしょう。過保護にならないようにしなければという思いが、僕には強いですね。他人の目があるか

ら授業に出るということではなく、なぜ、何を求めて授業に出るのかを自覚してほしい。そういった自覚を持った学生には、僕も手を差し伸べたくありませんし、手を差し伸べるのですが、やはり、学びたい人は積極的にアピールしたほうがいい。大学というのは、そういう場ですから。

浦野 できる学生というのは、決して特別なことをしているわけではありません。授業に出て宿題をやるという、ごく普通のことをやっているんです。僕は、このような指導であれば、学生は伸びるだろうという信念を持って授業を行い、宿題も与えているつもりです。だから、学生たちも、先生に指示されたからやるということではなく、指示された意図をまずは理解しようという姿勢でいてほしいと思います。

赤石 授業を通して教えていけることは、どうしても限られてしまいます。時間的な制約もあります。だから、問題意識を持つように、学生一人ひとりの取り組み方次第になってしまうのが現実です。学生は授業で得た何かを糸口にしていくことでしか、きっかけを持ちにくいかもしれません。とはいえ、個人個人でがんばりなさいと言いつつわけではありません。たとえば、僕らは論理的な話を中心に授業を行っているので、『この先生はこういったことを考えて説明しているんだろうな』と思いを馳せて授業を受けていけば、我々が持っている論理的思考のプロセスも楽しめるんじゃないかと思います。

浦野 トピックひとつを選ぶにしても、僕らはあれこれ考えているんですよ(笑)。学生たちは気づかないかもしれないけれど。

赤石 そのトピックによって、話し方でも違ってきくこともあるじゃないですか。だから、学生には、先生の話し方や話す順番の一つひとつにも、「なぜ、この先生はこういう筋道で話をしているんだろう」と考えたり、さらにそこから発展して、「私だったら、こういうように話をしていくだろう」、「こっこの内容を軸に話をしたほうがいいんじゃないか」と連想していくとおもしろいと思います。また、僕もそういった意見を聞きたいです。

浦野 学生から、そんな声がどんどんあがってくるような活気ある学部を、みんなで創っていきたいですね。



Passages

北海学園大学 経営学部

豊平シンクタンクの内側

大学で学ぶ「経営学」の新機軸を打ち出そうと、2003年春に開設された北海学園大学経営学部。北海道・日本・世界に向けて、これからの経営とはかくあるべきとの新発想・新解析を提示するシンクタンクを自負しています。「知の創造と活用」をコンセプトに掲げる経営学部の想いを、そこに集う教授陣や学生たちの考えを通して発信します。



①パパ ②札幌商業高校 ③心理学(行動科学)の観点から、経営や情報について学んでいきたい。④ウェブサイトを作ったことにより、色々なことに興味を持つようになった。



①特になし ②札幌新川高校 ③わからない。④少し明るくなった。



① Tetsuya ② Moiwa High School
③ I want to know more about management. I want to know about it in more detail than what I know now.
④ Although I was lazy in many cases after entering the university, I want to strive harder in my studies from now on.



①石井 晴子 ②英語、コミュニケーション論 ③通訳(以前の職業)、または獣医(この道を歩もうか悩んだ時期がある)。④世界中の学割を利用して貧乏旅行(収獲を手伝ってそこに泊めてもらうなどする)。



①特になし ②札幌光星高校 ③経営学。商品の売り込み方など。自分の夢を実現させるために、経営学を利用し、より夢を確かなものになりたい。④自分の将来について深く考えるようになった。ジャンルの違う友達ができ、新しいエッセンスが自分に取り入れられた。



①石田 修一 ②製品開発論 ③大学に奉職する前は企業のエンジニアでしたので、その仕事を続けていたかもしれません。④2~3年、世界を放浪したかった。今一番後悔していることがこれです。



①みくる ②札幌東陵高校 ③簿記、マーケティングで経営のプロになりたい。④自分のやりたい事が増えて、毎日、充実している。髪がのびた。



①けいこ ②遺愛女子高校 ③税理士の道に進みたいので、簿記を学びたいです。④朝と夜の生活が逆転した。一人暮らしをしたことで、経済観念が強くなった。

●経営学科と経営情報学科はどう違う？

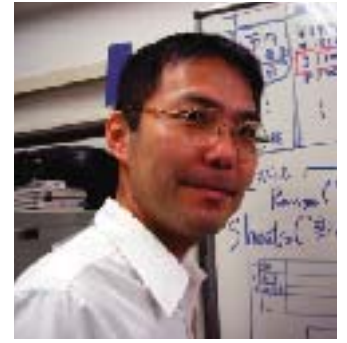
経営学科は、競争優位を確保できる組織経営のシステムを中心に、経営情報学科は、組織経営のシステムを円滑に作動させるのに必要な情報（会計）および組織経営における情報と人間との相互作用の問題を中心に、それぞれ理論的かつ実践的に学びます。経営学科と経営情報学科は、このように学ぶことのウエイトが異なりますが、カリキュラム編成上いずれの学科の学生も自分の将来の希望に合わせて、他学科の履修が自由に学べるようになっています。



①韓丹 ②中国吉林省松原市実験高級中学 ③経営学に関しての分野を学びたい。④自分がしたことに対して後悔しなくなった。



① Seiji, Nanguchi, Nanchan ② Fukagawa West High School ③ Since I am interested in the field of a management systems, I want to study many subjects relevant to management. ④ Fashion, how to use money, and my view about human relations have changed.



①穴澤 務 ②経営統計学概論、情報システム ③何かのライターかな。営業職だけは…。④年も若くなれるのなら海外留学を。30過ぎて初めて海外に行く度胸が萎えて結構苦労しますよ。



①けいすけ ②様似高校 ③簿記。もっと勉強して、日商1級を取れるようにしたい。④将来の事を意識しながら、勉強するようになった。



①まい ②札幌日大高校 ③今の世の中は、英語を話せて当たり前になってきているので、私も苦手な英語を克服して、話せるようになって、将来に活かしたいです。④高校生の時には、全く就職のことを考えたりすることはなかったのに、大学に入学して時間が経つにつれて、自分の将来について考えるようになりました。



①高木 裕之 ②会計学概論、財務会計 ③サラリーマン以外の仕事についていたかな。④加齢とともに失う体力をなんとか維持しようとテニスを始めましたが、学生時代に基礎体力をもっと養っておけばよかった。



①高校時代はタケチュウと呼ばれていました。②帯広緑陽高校 ③英語です。外国人と会話できるレベルに達したいです。④人に頼ってばかりでなく、自分から行動できるようになりました。大学生として自覚できるようになった。



① Mine ② Oasa High School ③ Foreign Synthetic Research, International Relations, Sogo Jissen English. ④ Sogo Jissen English class helps me improve my English and PC skills. I think that I am accustomed to speaking English and using a PC.



①かな ②帯広柏葉高校 ③英語、パソコン、マーケティングを深く学んで、社会に出たときに誰よりもバリバリ働けるようになる。④たくさんの人と出会って、視野が広がった。親元を離れて、少し考えもすっかりしたかな？あと、6kg太った(笑)。



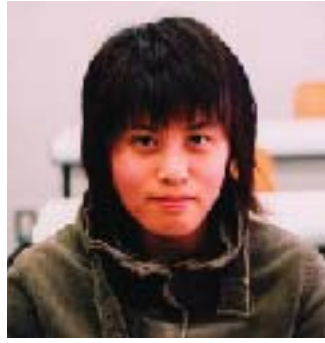
コンピュータ実習室
高度情報ネットワーク社会に対応した、情報処理やネットワーク技術を習得できる最新の機器を装備しております。



①小島 康次 ②認知心理学、認知発達心理学特講 ③やっぱり先生(小学校の)。④小型船舶1級免許を取って、ヨットで南の島へ行く。



① 栢内 香次 ② 情報処理論、プログラミング I ③ 多分、電気・電子系のメーカーで研究開発の仕事をしていたでしょう。④ 何よりも本(特に長編)をたくさん読みたい。気がついてみるとそのような時間を持てたのは学生時代だけでした。



① アイコ ② 札幌白石高校 ③ 中国語を学んで、アジアで就職できるくらい話せるになりたい。④ 就職について、より具体的に考えるようになった。



① ウツズ ② 札幌西陵高校 ③ 心理学とか、行動科学をとりたい。前期落としたけど(笑)。④ 関係ないけど、料理が上手くなってウハウハ。時間の使い方も上手くなってモチモチ。



① Katsuya ② Otaru Ohyou High School ③ Since I want to know about marketing in detail, I want to be a marketing major. ④ Fashion and consciousness about the future.



① よね、ちよね ② 札幌手稲高校 ③ パソコン関係 ④ 時間の使い方。



① 増地 あゆみ ② コミュニケーション論(I)、産業心理学 ③ 大学4年の秋まではシステムエンジニアになる予定でした。④ 世界遺産めぐりの旅。塩野七生「ローマ人の物語」など長編を読む。体力をつける。



英語の授業風景
学生全員のノート型パソコンを教室の回線につなぎ、海外のホームページに実際にアクセスしながら実践的な英語を学習します。



① ゆかり ② 栗山高校 ③ 入学当時から興味を持っていた会計分野の知識をより高めたいです。④ 周囲からの刺激などにより、学校の勉強だけではなく、自分の将来のための勉強をするようになりました。



① ヒガシデ ② 札幌白石高校 ③ 日本だけでなく、アメリカやヨーロッパの経済状況を把握し、世界に通用する企業を立ち上げたい。④ 週休2日制から週休4日制になった(笑)。自己責任を感じるようになった。就職に対し、真面目に考えるようになった。



① イッシー ② 北海高校 ③ 教師になるために教員免許を取得したいと思います。④ あまりスポーツをしなくなったので、5kg太りました。



① 浦野 研 ② 総合実践英語 ③ イタリア料理のシェフ、もしくは珈琲専門店経営(両方とも結構本気)。④ 旅行。学生時代ほどまとまった時間を取れる時は他にありません。貧乏旅行でも世界中を歩き回りたいかった。



① Gonshi ② Otaru Ohyou High School ③ Marketing, Business Administration. ④ I made friends and I got accustomed to college life. I enjoy it everyday.



① Mark Matsune ②総合実践英語
③ I have dreamed of becoming every-
thing from a radio DJ to a lawyer and
electronic engineer. ④ "If you study
to remember, you will forget, but, if
you study to understand, you will
remember."



①ゆき ②札幌稲雲高校 ③情報系の
科目に力を入れて学びたいです。機会
があればMOUSなどの資格にチャレン
ジしていきたい。④授業で使用する
ため、パソコンをより身近なツールと
して使えるようになりました。



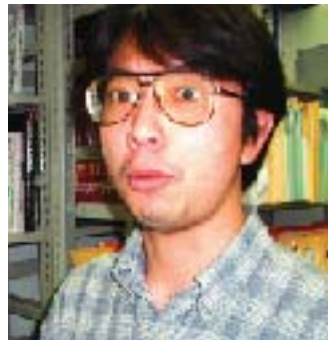
①水車町町長 ②札幌光星高校 ③デ
ザイン工学。④内面がいくらか強く
なった。



①まゆ ②札幌開成高校 ③「経営系」
「マーケット系」「企業系」、すべての分
野において、組織の効率性、創造性、革
新性を追求するマネジメント能力を育
成していきたい。④人付き合い。



① Ume ② Ebetsu High School
③ Business Management and English
④ I am a better handball player.



①鈴木 修司 ②心理学 ③道端の人
になっていたかも…。④すべてをや
り直したい！もあるけど、「心理学」の
勉強をちゃんとしたい。



①みき ②札幌丘珠高校 ③パソコン
を使いこなせるようになりたい。英語
をべらべら話せるようになりたい。心
理分野を詳しく学びたい。④自由な
時間が多くなった。交友関係が広がった。



①世良 耕一 ②マーケティングコミュ
ニケーション ③前職(銀行員)を続け
ていたか、外資系企業に転職していた
かのどちらか。④「マネーの虎」に出
演して、資金を獲得し、事業を始め、学
業と両立させたい。



①ゆみ ②札幌啓北商業高校 ③語学
系の科目。④特になし。高校の頃とあ
まり変わっていない。



① Yusuke ② Obihiro Sanjyo High
School ③ About the information
technology field. ④ I want to carry
out my future dreams.



①大場 四千男 ②経営史 ③芸術家、
旅行家、社会評論家、映画監督…。空間
の立体構造、宇宙秩序、人間秩序への探
求がひとつの夢でした。④留学して、
心理学を学んで、唯心論から社会秩序
を体系付けてみたかった。



① I have no nickname. ② Sapporo
Shiroishi High School ③ I am interest-
ed in becoming a certified public ac-
countant and a licensed tax accountant.
I especially want to study things. Such
as bookkeeping and accounting. ④ I
feel that my part-time job introduces
me to the working society.

●教育支援システムの導入について

経営学部では2004年春から、学生生活をより充実したものにすするため、教育支援システム【HLS: Hokkai Learning System (仮称)】を1部2部ともに全面的に導入します。この教育支援システムは、これまでの講義の形を大幅に改善するもので、学生はインターネットを通じてさまざまな情報を得ることができるようになります。また、e-learning (インターネットを通じた自学自習)の導入にもなるため、より効果的な学習環境が提供されることとなります。このようなシステムは、全国的にも先んじて本学経営学部(他学部には導入されません)が本格的に導入するもので、経営学部生はより充実した学生生活を送ることができるようになります。

では、この教育支援システムとはどんなものなのでしょうか。たとえば、これまで講義の際に配られていたレジュメは、全てインターネットを通じてダウンロードできるようになり、レポート提出もインターネットで提出することになります。講義概要はいつでも自由に見られるようになり、次回・前回の講義がどのようなものだったかもす

ぐにチェックできます。さらに、講義で分からなかった部分を、各先生が用意した補習コンテンツで復習したり、掲示板で質問をしたりと、講義では十分に理解できなかった内容もきちんとフォローできるようになります。学生1人ひとりに自分のページがあり(1Dとパスワードでログインします)、自分が今何を履修しているのかが一目で分かたり、先生からの直接のメッセージなどが自分個人宛に送られてきたりします。そのほかにも、カレンダー機能で自分のスケジュール(アルバイトやコンパなど個人的なもの)を管理できたりと、学生生活全てに関わるものとなります。

これらの機能は、学外からも利用できるようになる予定ですので、実現されれば、自宅でも大学の休講情報や講義のテスト情報などを得ることができるようになります。つまり、知りたいときに知りたい情報がいつでも得ることができるようになるのです。このような環境が整えられることで、学生生活は2倍にも3倍にも便利に、充実したものとなるでしょう。

Passages

●経営・情報・心理の三つの領域の融合

組織経営・組織情報(会計)・組織心理の三つの異なる専門領域を総合する教育体制が、他の経営学部および経営情報学部(学科)には見られない北海学園大学経営学部の大きな特徴になっています。

組織経営

グローバル化を背景とした激化する競争環境の中で、企業組織を成長・維持・発展させていくためのシステムを確立させることは容易なことではありません。例えば、コンビニエンスストアの単品管理、多頻度小口配送、大手メーカーとの共同製品開発の体制などにみられるように、こうした競争環境下で競争優位を確保している企業の多くは、独自の優れた組織経営のシステムを構築しているのです。

組織系、マーケット系、企業系の各科目で、競争優位性を確保できる組織経営のシステムを学んでいきます。

組織情報

組織経営のシステムを円滑に作動させる際に重要になるのが、情報の流れをうまく管理していくことです。例えば、コンビニエンスストアの多頻度小口配送を円滑に機能させていくには、高度な情報ネットワークシステムにより、売場のリアルタイムな情報を組織全体で生かしていくことが、大きな鍵を握っていると言えます。

数多くの情報分野科目や資格講座の他、全ての学生に、ノートパソコンを常備してもらうことで、非常に特色のある情報教育を展開します(コラムも参照してください)

組織心理

優れた組織経営のシステムを支える高度な情報ネットワークの世界でも、その情報を収集し、理解し、活用していくのは、人間です。例えば、コンビニエンスストアのケースでも、競争優位を確保している企業は、コンピュータ・ネットワークの媒介によるデジタルな情報と人的なフェース・ツー・フェースのコミュニケーションから得られる情報をうまく組み合わせているといわれています。

心理学科目を通じて、組織の個人と集団の心理的情報を分析し、活用する方を学ぶ他、経営・情報(会計)・心理の各分野を架橋する科目を設置することで、人間行動への理解も兼ね備えた情報処理能力を有する人材の育成を目指します。



●学部長からのメッセージ

経営学部長 内田 昌利

北海学園大学創立50周年記念を過ぎて大学に新しい枝が伸び、いま春の陽射しを浴びて若葉が輝き始めています。それが経営学部であり、パイオニアである第一期生、そして4月から入学する第二期生の皆さんです。皆さんの経営学部に対する期待は大きいはずですが、皆さんには、貴重な時間とエネルギーを自分の成長のためにだけ向けることができる環境が与えられています。4年後にどう自分に出会えるか、10・20年後に自分がどうなっているのか、未来への大きな夢を持ち、自分を育てる厳しくもワクワクするような旅に一歩踏み出したところなのです。

これからの4年間、自分を成長させる機会がよく見れば至るところに用意され、ころがっています。総合教育と専門教育から、幅広い物の見方・考え方を養うグランド・セオリーと仕事や職業に直結する専門知識とを体系的に学んでいきます。各人の中で相互にフィードバックしあう教養的知識と専門的知識とを縦糸として、実践的英語教育・デジタル・スキルの習得・人間行動・心理への洞察・海外総合実習に代表される実習教育を横糸として

織り成す世界が経営学部教育です。その目的は、組織化されたカオスとでも言えるような現代社会を強く柔軟な意志をもって生き抜くための高い知的および技術的能力を養成することにあります。

大学教育に皆さんを送り出すことにご苦労されている父母・保護者に感謝する気持ちを忘れず、自分の目標に向かってしっかり着実に里路標を一つひとつ踏み越え歩み続けることを祈っています。最後に、学生生活が生涯の友に出会える旅でもあれることを願っています。

②管理会計 ③生甲斐を求めて試行錯誤し、彷徨った結果が今の仕事だから、「もしも先生になっていなかったら」試行錯誤を再び繰り返すのだろうか。④モテナイ、カネナイ、フガイナイ学生時代だった。だから、あえて戻りたいとは思わない。実感です。

Message